

令和 2 年度焼津漁港津波対策の実施状況について

静岡県焼津漁港管理事務所

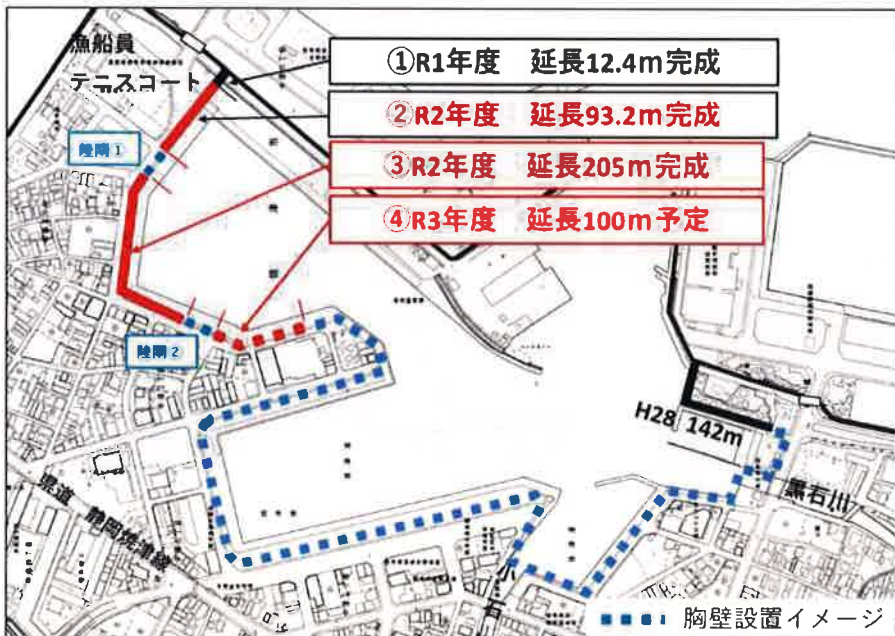
日頃、焼津漁港管理事務所の業務について、御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、焼津漁港の津波対策は、平成 29 年度から関係する自治会単位で御説明をさせていただいておりましたが、焼津市及び焼津市自治会津波対策検討会の方々と協議し、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため説明会は行わず、回覧で報告させていただきます。

令和 2 年度の津波対策としては、外港防波堤のねばり強い改良工事に加え、焼津地区・小川地区で胸壁（防潮堤）の工事と港口水門の検討を行っています。以下、胸壁工事と水門検討の実施状況について報告します。

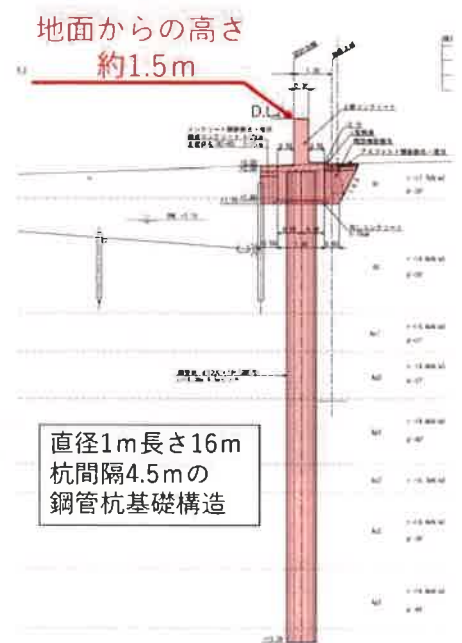
1 焼津地区の胸壁工事について

平成 28 年度に新屋石油タンク前延長 142mの胸壁工事が完成し、令和元年度は、既存の防波堤との取り付け部として 12.4m（位置図 A の①）、令和 2 年度は、漁船員テニスコート前の延長 93.2m（位置図 A の②）と第 2 船渠 3～4 号岸壁 L=205m（位置図 A の③）が完成しました。引き続き、令和 3 年度は延長を伸ばし、約 100m（位置図 A の④）の工事を予定しております。



(※延長等は諸条件により変わることがあります)

位置図 A



標準断面図 A

位置図Aの② 令和元年度胸壁工事 L=93.2m (令和2年5月完成)

漁船員テニスコート前



着手前



完成

位置図Aの③ 令和2年度胸壁工事 L=205m (令和3年3月完成)

第4岸壁背後



第3岸壁背後



着手前

完成

位置図Aの④ 令和3年度工事予定区間

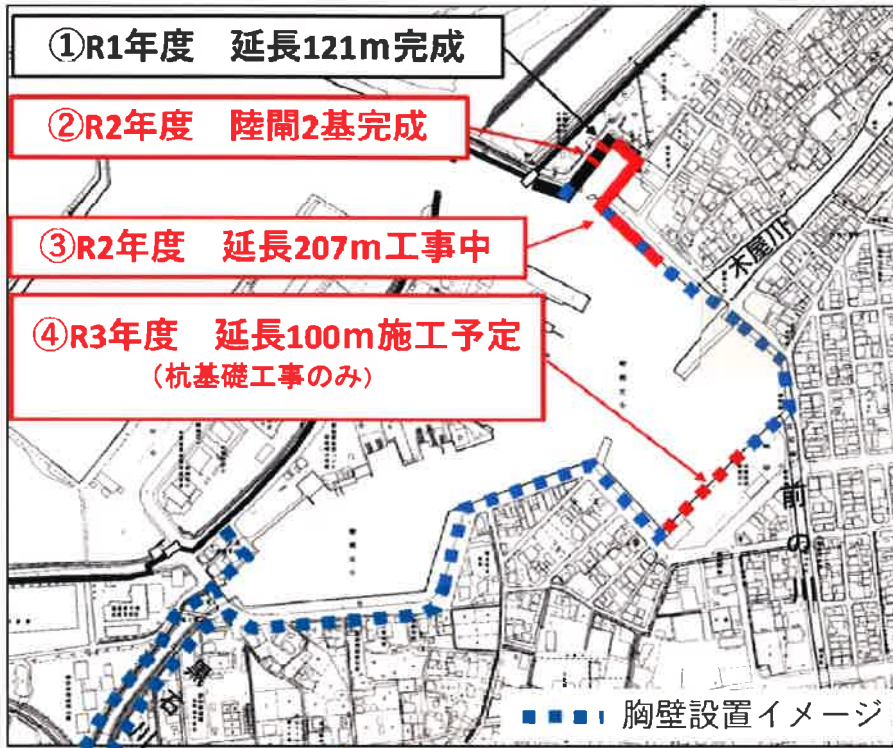


令和3年度は、令和2年度工事に引き続き、中港地区の第2～3号岸壁に沿って延伸していきます。構造は令和2年度と同様に鋼管杭基礎構造で、地上から約1.5mの高さとなります。

2 小川地区の胸壁工事について

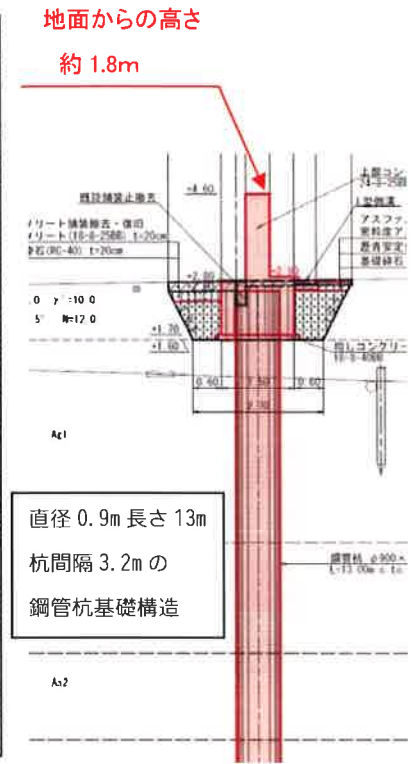
令和元年度は、胸壁工事延長 121m が完成し、引き続き令和 2 年度は石津南岸壁の方へ延長約 207m を施工しております。また、令和元年度工区で未設置であった陸閘 2 基の設置工事を行いました。

令和 3 年度は、施工性や経済性を考慮して、小川漁協旧魚市場前の延長約 100m の杭基礎工事のみを先行して実施します。



(※延長等は諸条件により変わることがあります)

位置図 B



標準断面図 B

位置図 B の② 令和 2 年度陸閘工事 N= 2 基
(令和 3 年 3 月完成)



陸閘完成

位置図Bの③ 令和2年度胸壁工事 L=207m (令和3年6月完成予定)



着手前



施工中 (胸壁本体工)

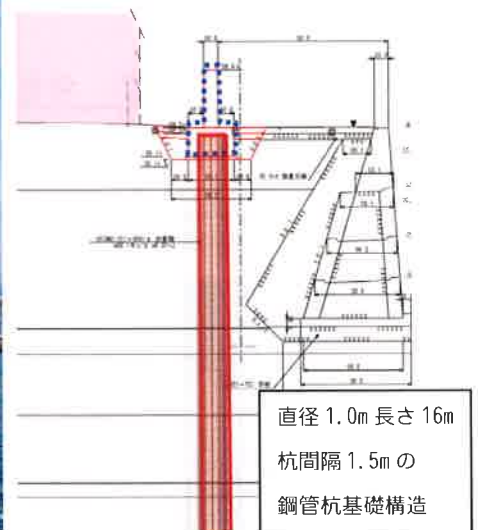


着手前



施工中 (基礎杭工)

位置図Bの④ 令和3年度工事予定区間



施工条件や経済性を考慮し、小川漁協の旧市場前の胸壁工事の基礎杭工事を先行して実施しますが、胸壁本体工は予算の関係上令和4年度以降を予定しています。

3 胸壁の景観対策について

胸壁整備では、県内でも実施事例が少ない、シースルー構造の亚克力板を8~10m間隔で設置し、防犯や景観に配慮しています。この亚克力板は、水族館でも使用され津波水圧に対しての強度や耐久性を有しています。

また、景観については、焼津市景観計画に基づき景観アドバイザー（学識）に助言をいただき計画しています。焼津市景観計画では、“周辺景観と調和すること”、“落ち着きがあり違和感のないもの”とされており、景観アドバイザーと現地調査を行い検討した結果、視点が亚克力板に集まることから胸壁は目立たないデザインが好ましいと助言をいただき、化粧型枠等を使わず素材感を重視した無垢のコンクリート表面（通常の型枠）で施工することとなりました。

【景観対策の亚克力板の設置】



亚克力板設置状況

【景観アドバイザーと現地調査】



歴史的な漁師町文化が残る浜通り周辺地区の街並みを調査し、周囲の景観との調和を検討

現場では、視点場となる階段部や、シースルーの亚克力板から見える景観を調査

【景観アドバイザーからの助言】

（胸壁の景観対策）

- ・コンクリート表面を石やブロックに見せる時に使用する化粧型枠は、見せかけのハリボテであるので、焼津漁港の景観を検討する上で好ましくない。
- ・焼津漁港の場合は、胸壁の中に亚克力板があり、亚克力板に視線が向くので、胸壁は目立たなくし、脇役に徹するべきである。
- ・素材そのものを生かし、表面は何もしない無垢のコンクリートの方が風景を邪魔せず違和感がない。

（景観を眺める視点場の設置）

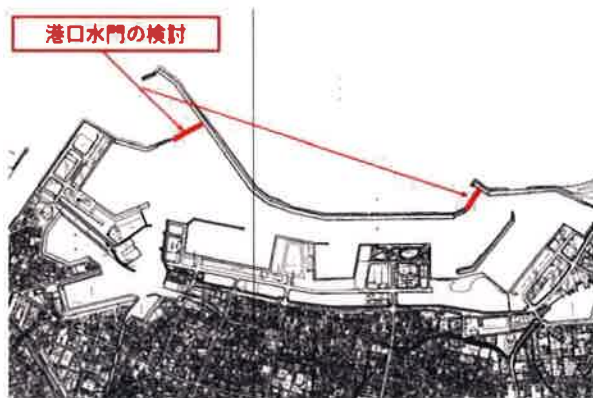
- ・陸間までの距離が遠い箇所は、避難用の階段工を設置する計画であるが、焼津漁港の景観を楽しむ視点場としての機能もあるので、天端を広くしたり、手すりは視線を邪魔しないものを採用するなど工夫するとよい。

今後も景観アドバイザーに助言をいただき計画していきます

4 水門の検討について

焼津漁港では命を守る胸壁整備と水産業を守る港口水門の検討を同時並行で行っています。現在検討しているフラップ式水門は、多額の費用がかかりかつ全国で稼働実績がないため安全性の検討は慎重に行わなければならない、検討には時間がかかります。

また、事業の費用対効果についても、水門の建設費の縮減を目指すため港口の水門幅を小さくするなどの検討を行っており、引き続き、検討してまいります。



港口水門位置図



フラップ式水門（イメージ）

●最後にお願い

津波に対して一番大切なことは「避難」です。

東日本大震災では、防潮堤があることを過信して避難行動が遅れたため、多くの方が犠牲になりました。

災害時は想定外のことが起こり得ますので、胸壁整備が進んでも日頃から津波避難訓練を行い、地震が起きたらすぐに高い場所に逃げるようお願いいたします。

お問い合わせ：静岡県焼津漁港管理事務所 焼津市鰯ヶ島 136-24

整備課 電話 628-3126

【令和3年4月作成】